

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 令和 5 年度事業報告書

令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

### 1 事業実施の実績

#### ① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

- ・ COVID-19（新型コロナウイルス感染症）については 5 類移行に伴って、コロナ以前の状況に近くなっており、各種行事も通常の運営になってきた。
- ・ 恒例の干潟観察会は春夏ともに 200 名を越える参加者が集まった。前年度から参加者が増えており、駐車場対応など新たな取り組みが必要となった。
- ・ 今年度が 3 年助成の最終年となる地球環境基金関係の事業では、「中津干潟レポート 2023」を発行した。中津干潟の自然環境を知る上で基礎的なデータとなっており、今後の活用が期待される。
- ・ 今回で 3 年目となる 7 月 1 日の中津干潟の日記念行事は、「中津干潟の日の集い」と題して、ひがたらぼ隣地での催しと小幡記念図書館での写真・映像展を実施した。本プログラムが定着するよう努力を続けていきたい。
- ・ Savejapan プロジェクトの助成をいただき、中津干潟のおせったい（Eco-DRR イベント）、ベッコウトンボ観察会、夏休みのガタフェス 5（子どもアカデミア）、アカテガニ産卵観察会、中津干潟アカデミア研究発表会を実施した。
- ・ 第 7 回中津の海の絵コンテストに 758 名の応募があり、TOTO リモデルフェアにおいて入賞作品とポスターの展示を行った。
- ・ 第 7 回「中津干潟アカデミア・研究発表会」は、4 年ぶりに一般観客を入れての開催となった。YouTube を利用したネット中継も合わせて行った。内容としては、OECM（自然共生サイトも含めて）をテーマにトークセッション形式で意見交換を行った。
- ・ 市民が気軽にネイチャーセンターに立ち寄れるようにと企画した「ひがたかふえ」は多忙により開催できなかった。今後は zoom を積極的に活用するなど、参加者が参加しやすい形で開催を目指していきたい。
- ・ 主に小学校での学習支援、自然観察会はほぼ例年通りの実績となった。会所属の環境教育アドバイザーが 4 名となり、より多様なニーズに応えられるようになった。
- ・ 国土交通省の河川協力団体として、出前授業、山国川おサカナ観察会などを実施した。今回の観察会は、山移川スポーツ公園を会場に実施した。水害の影響はあったものの概ね好評の内に終えることができた。

- ・ テレビ・ラジオ・新聞など多数の取材協力を行った。NOASFM、毎日新聞、読売新聞、大分合同新聞、OAB、ケーブルテレビ等から取材を受け広報につながる成果を残した。

## ② 調査研究活動

- ・ 中津市より中津干潟及び野依新池の調査委託があった。干潟の調査では、前年度カブトガニの新産卵地発見を受けて周辺部を調査した結果、大規模な産卵地を確認することができた。シギ・チドリ類調査では、ダイゼン、ハマシギ、オオソリハシギなどが減少した。心配された、チュウシャクシギ、キアシシギなどは増加に転じた。ベッコウトンボの発生数は大幅に増加し、危機的状況を脱することができた。野依新池及び干潟保全の提言書をまとめた。
- ・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などについて調べた。今期も概ね例年通りの結果となった。
- ・ 中津干潟の調査は、NPO 法人南港ウェットランドグループをはじめ、協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性がますます高まってきたことが示された。今期は 10 年ぶりに地球環境基金の協力で「中津干潟レポート 2023」を作成・配布した。
- ・ 野依新池の調査は、トンボ類を中心に水質、水生生物などについて行った。
- ・ 水産大学校、日本文理大学など複数の大学の調査に協力すると同時に、当会の調査活動にも一部協力いただいた。
- ・ 毎年行われている JEAN の海ごみ調査、国際海岸クリーンアップ（ICG）に参加した。

## ③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

- ・ 海岸清掃は、参加人数がコロナ禍以前に戻り、5 月、9 月、1 月に大新田、3 月に三百間で実施できた。参加者減少が見られる中、ビーチクリーンをより楽しめるよう、トークなどに工夫を凝らした。松林景観再生活動については年度当初、TOTO(株)より、組織としての参加は難しいとの申し出があり、前期よりも参加人数が大幅に減少した。松林の整備は、中津干潟の保全にとって重要であり、どのように支援者を確保するかが課題である。
- ・ 一昨年度から蛸瀬川のゴミ問題に取り組み、数年ぶりに開催された地元のリバークリーンに参加した。また会員 1 名が 1 年を通して主に左岸側のプラスチックゴミを回収した。これにより、大量に蓄積していたプラスチックゴミの溜まりが解消しつつある。今後、参加者を増やしたい。
- ・ 県立工科短期大学校の海岸清掃と松林整備を実施した。また、城北中学校の全校生徒が参加し三百間浜でビーチクリーンを行った。さらに、小楠小学校が今年もビーチクリーンと松林整備を行った。

④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動

- ・ アカシ染め刺繍のワークショップは、8月にひがたらぼで開催した。公表後、すぐに定員に達する人気ワークショップではあるが、本来の染色ワークショップを春から初夏の定番行事とできないかと考えている。
- ・ 3月に海苔すき体験のワークショップを実施した。角木地区の海苔漁師は1件だけとなっているが、毎回好評をいただいております。今後も継続して続けられるよう努力したい。

⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信

- ・ ガタガタ通信は予定通り年4回発行した。
- ・ HPのアクセス数は昨年の35,500件から36,000件と微増となった。さらなる増加を目指してSNSの活用、HPをスマートフォン向けに改装する必要があるものとする。
- ・ 正会員向けにメールマガジン「ガタガタマガジン」を概ね週1回のペースで発行しはじめて、2年目となる。業務の内容がより伝わりやすくなっていると期待する。今後は、一般会員向けのメールマガジンの発行も検討している。
- ・ 環境保全やNPO経営など各種の勉強会に20回ほど出席し、地域のオピニオンとしての役割も果たすため情報収集活動を行った。
- ・ 2月にラムサール条約と自然共生サイトについての講演会&トークセッションを開催した。昨年の勉強会で講師を依頼した、RCJの中村さん・武者さんに加え、国際湿地連合前会長の名執さん・環境省九州事務所の小林さんを新たに迎え実施した。ラムサール条約登録、子どもラムサール、自然共生サイト(OECM)認定の可能性について話した。会場には、一般市民のほか、行政担当者や議員の参加も多く、保全の公的枠組みについて、広報することができた。
- ・ 2030年までに海と陸地の30%を保護区にするという30by30に合わせ、2023年から指定が本格化した自然共生サイト(OECM)への申請準備を進めてきた。今後、野依新池近傍の尾無の湿地、中津干潟の一角である舞手川河口域の認定を目指す。

⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など

- ・ 舞手川河口で実施している養浜の試みが9年になるがカブトガニの産卵場所の確保と海岸の保全、河口閉塞の防止という面で効果を上げている。今後も調査、モニタリングを継続したい。
- ・ 生物多様性おおいた県戦略策定会議、中津市環境審議会、大分県うつくし作戦県民会議自然保護観光部会など行政の設置する会議への参加、提言等を継続的に行っている。市環境審議会においては、生物多様性保全の重要性を市環境基本計画中間見直しに反映させることができた。
- ・ 野依新池に関連して、昨年、植野池の周辺環境改変が懸念される事象があり、県自然保護推進室・農業基盤整備担当部署・市環境政策課の担当職員、大分の重要な自然共

生地域コーディネーター、地元区長、水辺に遊ぶ会が数回にわたり現地に集まり、調整を行った。今後も県・市の担当部署と連絡を密にしながら保全を進めていきたい。懸案である行政と地元と保全団体で構成される協議会の立ち上げを継続的に市に提言している。ベッコウトンボは、中津市・宇佐市の天然記念物の種指定が進められており、実現すれば県の天然記念物の指定などを目指して活動したいと考える。

- ・ マスコミ取材、情報提供なども適宜実施した。
  - ・ 大学の研究支援、協働、民間調査協力、情報提供などを行った。
  - ・ 行政関係者に適宜、情報提供、提言、協力なども実施した。
- ⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動
- ・ 組織基盤強化及び持続的な経営の確立を目指して徐々に分散化をすすめている。理事による定期的な情報交換会を実施するようになり、また、正会員・会員の交流なども考えている。今後も管理業務及び事業実施業務の分散化、組織の高齢化、関係者のスキル不足、若手の担い手不足など課題を一つ一つ解決していきたい。
  - ・ 上記の問題に対応して、事業マニュアルの作成を続けている。主な事業及び管理業務を皮切りに、業務内容のパッケージ化を引き続き目指したい。
  - ・ 経営ガバナンスは、当会にとって必須のものであり、理事、正会員がその意義を深く理解しておく必要がある。同時に、資金調達、文書管理、監査体制の確立を目指す。
  - ・ 「ひがたらぼ」が設置されて 8 年が過ぎたが、各所に老朽化が目立つようになってきた。しっかりとした建造物に更新するために、土地の確保、資金調達など課題は多いが、子どもたちの学習支援や社会教育、研究の拠点を維持発展していくため一丸となって取り組んでいきたい。

#### ⑧その他

- ・ 経営面では、今年も会員皆様のご協力が無事乗り切ることができ、繰越金も 50 万円程度残すことができた。繰越金の残高は 750 万円近くとなり、ネイチャーセンターの設立も視野に入っている。ただ、必ずしも経営的には安定した状況とは言いがたく、財源の確保が引き続き課題となったままである。
- ・ 経営の効率化、分業の推進、ガバナンスの確立など課題は山積である。組織化について学習を重ね、メンバーと意見交換を行いながら進めていきたい。理念の共有が重要である。適宜学びの場・会員相互の交流の場をつくっていきたい。

(法第28条第1項関係「前事業年度の事業報告書」)

### 令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

## 2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名						
事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	受益対象者の人数	支出額(円)
① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進						
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	5/3	野依新池	13名	市民他	19名
	春の干潟観察会	6/3	大新田	16名	市民他	172名
	アカテガニ観察会	7/30	大新田	13名	市民他	31名
	山国川おサカナ観察会	8/5	スポーツ公園	14名	市民他	30名
	ガタフェス5	8/20	ひがたらぼ	27名	市民他	24名
	ベントス観察会	8/21	東浜	3名	市民他	3名
	秋の干潟観察会	9/30	大新田	17名	市民他	116名
	ズグロカモと冬鳥観察会	1/21	東浜	12名	市民他	11名
その他行事	Eco-DRRおせつたい	6/24	大新田	13名	市民他	44名
	中津干潟の日の集い	7/1	東浜	14名	市民他	32名
	ポスター・写真展	6/28.7/10	市立図書館	2名	市民他	不特定
	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	758名
	夏休みWS	夏休み	ひがたらぼ	18名	市民他	26名
	中津干潟のお魚大好き	9/1	小祝	9名	園児	15名
保育園での環境学習指導	2回	中津市	11名	園児	65名	
小学校での環境学習指導	27回	中津市・外	83名	児童	1358名	
中学校での環境学習指導	2回	中津市	4名	生徒	600名	
短大・大学の環境学習講師	1回	中津市・外	3名	学生	100名	
社会教育の場などでの講師	3回	中津市・外	3名	市民他	60名	
企業・その他団体他での講師	5回	中津市・外	14名	児童・市民他	70名	
中津干潟NETアカデミア	12/17	まなびん館	18名	児童・市民他	不特定	
マスコミ対応	5回	中津市	10名	市民他	不特定	
② 調査研究活動						
生物調査(カブトガニ)	22回	中津干潟	67名	市民他	不特定	
生物調査(シギチドリ類他)	30回	中津干潟	63名	市民他	不特定	
生物調査(ベッコウトンボ・生息地)	16回	野依地区他	17名	市民他	不特定	
その他(アライグマ・漁場塩分・コアマモ・ベントス)	26回	中津干潟	43名	市民他	不特定	
他機関との協働(水産大・日本文理大・群馬大・熊本大・大分大・長崎大・兵庫県立大・京都先端科学大・福岡工業大・富山大・高知大・琉球大)	18回	中津干潟他	30名	大学他	40名	
③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動						
ビーチクリーン(漂着物調査)	大新田海岸	5/14・9/10・1/21	大新田	39名	市民他	588名
	三百間海岸	3/3	三百間	12名	市民他	130名
	漂着物調査	1回	大新田	3名	市民他	不特定
	学生への指導	2回	大新田他	7名	児童・学生他	188名
児童向海ごみ学習用冊子編集	3月	大分県内	1名	児童・県民他	不特定	
松林景観再生	一般参加作業	5/14・9/10・1/21	大新田	3名	市民他	60名
	専門作業	6回	大新田	9名	市民他	不特定
	学生への指導	2回	大新田他	7名	児童・学生他	188名
リバークリーン	蛸瀬川	通年	蛸瀬川	15名	市民他	不特定

④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動						
帝王紫刺繍ワークショップ	8/16	ひがたらぼ	5名	市民他	6名	38,244
海苔すき体験	3/16	漁協倉庫前	12名	市民他	25名	
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信						
会報誌発行	4回	国内	8名	国内	1600名	286,308
ホームページ維持管理	通年	国内	1名	市民他	36,064アクセス	
生物データベース管理	通年	国内	2名	研究機関等	不特定	
勉強会参加	20回	国内	20名	会員	不特定	
豊かな自然を未来につなぐ講演会	1回	中津市	17名	市民他	51名	
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など						
TOTOリモデルフェア	3/9	TOTO工場内	4名	市民他	不特定	80,809
野依新池ベッコウトンボ保全作業	11/18	野依地区	13名	行政・市民	不特定	
OABつながり実感プロジェクト	9/16	中津市内	8名	市民他	13名	
野依新池・植野池保全助言	5回	野依地区	5名	行政・団体	不特定	
豊かな海づくり大会プレ大会大分海博	11/4	別府市	7名	行政・市民	不特定	
中津市お魚感謝デイ	11/25	小祝	9名	行政・市民	不特定	
生物多様性おいた県戦略策定会議	4回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
中津市環境審議会	2回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
大分県うつくし作戦推進県民会議	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県うつくし作戦推進県民会議	1回	宇佐市	1名	行政・市民	不特定	
新しい大分県共創会議	1回	宇佐市	1名	行政・市民	不特定	
河川協力団体	通年	中津市他	2名	行政・市民	不特定	
アンケート協力(主なもの)	7回	ひがたらぼ	7名	行政・市民	不特定	
学校ヒアリング協力	12回	ひがたらぼ	12名	学校	不特定	
団体ヒアリング協力	9回	ひがたらぼ	9名	団体	不特定	
五十石川連携ほか	通年	中津市内	3名	市民他	不特定	
中津市環境ポスター・標語審査	1回	市役所	1名	行政・市民	不特定	
海岸事業に関する検討	通年	中津市内	2名	行政・市民	不特定	
ベッコウトンボ保全に関する検討	通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	
ニホウサンショウウオに関する検討	2回	中津市内	2名	行政・市民	不特定	
⑦ 持続可能な社会を追求するためのその他の活動						
保全の枠組み指定に関する活動	通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	400,153
「ひがたらぼ」運営	通年	ひがたらぼ	1名	行政・市民	不特定	
NPO基盤整備	通年	ひがたらぼ	5名	行政・市民	不特定	
商品(カブトガニサブレ・海苔他)販売	通年	中津市・外	2名	行政・市民	不特定	
ガタガタ広場水道設備運営	通年	大新田	2名	行政・市民	不特定	